

早稲田大学 法学部

優秀な法曹の輩出が法学部の目標ではありません。どの道に進むにしても基礎となりうる法学専門科目と、広い世界に目を向けさせる語学・教養科目を両輪とする教育を通じて、あらゆる分野で活躍する「広い意味での法律家」の育成を目指します。



■大学生
樋口政隆さん



■先生
棚村政行先生



■卒業生
矢部聖子さん

CONTENTS

- プロフィール
- 先生のゼミについて
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

早稲田大学法学部の特色を教えてください。



■先生

当学には様々なバックグラウンドを持った学生が集っています。日本全国からだけでなく、海外からの留学生もたくさんいます。「早稲田大学で学びたい」という意思を持って挑戦した学生ばかりなので、大学卒業後の目的や夢をはっきりと描いている学生が多いですね。そういう環境ですから多様な人と出会えます。そして時には仲間、時にはライバルとなり、切磋琢磨しながら自分の目的や夢に向かうことができるといのが、まず当学の特徴でしょうね。

教授陣も多彩です。法学部の場合は早稲田出身者ばかりというわけではなく、専門とする研究分野も

多彩で、なおかつ日本でも一流の先生たちが集まっています。高いレベルの法学を学ぶことができますよ。

■卒業生

毎年学部の入学者が800人前後いますから、本当に様々な人と会うことができますね。みんな目的や夢はもちろん、性格も考え方も違う。そういった人たちと知り合い、刺激し合いながら勉強するというのは、なかなかできない経験ですね。社会に出ても様々なシーンで先輩たちにお会いします。大学の話で盛り上がっています。

講義についてはどんな特色がありますか？

■先生

語学・教養についても、様々な専門性を獲得できるよう力を入れています。ただ講義を開設するだけでなく、段階を踏んで専門的な知識が稼得できるよう、カリキュラムを工夫していますね。

法学部はもちろん法学関連の講義は必修ですが、それ以外の講義は自分のキャリアプランや選択したコース、興味に合わせて自由に選択をして受講することができます。主専攻と副専攻といった具合に授業の内容も分かれていて、主専攻は法学関連を受講し、副専攻では政治・経済・社会学に関する授業を取って周辺知識を深めるといった学び方もできます。そのほかにも、社会科学系、芸術、メディア、歴史や文学などの副専攻が用意されていますよ。

卒業生の進路はやはり法曹関係の方が多いのですか？

■先生

全体を見ると、多い年では2割近くが法曹志望ですね。そのほか、1割近くが公務員に。残りの7割は、民間企業に就職しています。私のゼミを見てみると、金融業界や不動産業界に就職した学生が多いですね。みんな優秀で、様々な業界で活躍していますね。

法曹志望が意外と少ないと感じますか？ 法律の知識というのは、社会にとって必須の知識です。どんな業界、どんな企業に就職しても必ず役に立ちます。営業として契約を結ぶ、人事で労務管理をする、組織を運営する、または独立して会社を興す。どんな活動にも、必ず法律の知識は求められます。就職後数年経って、法務の仕事に就いている、あるいは法学部で学んだことを活かして活躍しているという卒業生は多くいますよ。

●先生のゼミについて

先生の研究内容について教えてください。

■先生

民法の中でも、家族の法制度を中心に研究をしています。昨今話題になっている、婚外子の相続差別や夫婦別姓の選択制、同性同士の婚姻などを取り上げています。結婚や親子、出産といったテーマが多いですね。医療技術が進歩するし、現在では本人が死亡した後でもその人の子を出産することも可能です。また代理出産という手段も一般的になりつつあります。そのため「親子」の定義が複雑になっているのです。DNAで決めるべきなのか、生活実態で決めるべきなのかということもこれからは頻繁に問題となるでしょうし、従来の法律の枠組みでは判断できないような、新たな問題も生じるでしょう。そういった話題になるテーマを研究し、法務省や関係各所に提言を行ったりもしています。ゼミでも同様のテーマを取り上げることが多いですね。



■大学生

私は1年生の時に先生の家族法のゼミに参加して感銘を受けました。もともと法曹の道には進みたいと思っていましたが、棚村先生のゼミで知ったこと、考えたことがきっかけとなって、民事関係の仕事に深く関わりたいという思いが強くなりました。

ゼミについて教えてください。

■先生

ゼミでも夫婦や親子関係、相続の問題を扱っていますね。

■大学生

早稲田大学法学部では、1年次からゼミを履修できます。自分が学びたいテーマに沿って、様々なゼミに参加することができるんです。

■先生

様々なゼミがありますので、その中で自分の興味やその後のキャリアの希望に合わせたゼミを選び、ディベートや論文などでスキルを積むことになります。私のゼミではディベートが中心で、卒業論文はありません。

話題となっている問題や、過去の判例から学生たちがテーマを決めて、賛成と反対のチームに分かれて議論を行います。ジャッジをする立場のチームもいて、お互いの賛成反対の主張を聞いた上で、反論をします。ただ賛成、反対とその場で主張するのではなく、時間をかけて証拠や資料を集め、自分たちの論理を強化して臨みます。ジャッジを行う人間は、その議論の正当性や、反論の仕方などを見て、どちらがよかったかを評価します。最後には私が講評を行って終了。90分のゼミですが、毎回しっ

かりと予習されており、常に白熱した議論が繰り広げられますね。

議論をすることで、テーマとなっている問題を深く突き詰めることができます。これは社会に出て、法律以外のさまざまな問題を扱っていく上で、非常に役に立つ技術となります。

■卒業生

先生のゼミはどの学年からも人気がありますね。その理由はやはり、自分たちで創るゼミだからでしょう。私もそうでしたが、学生たちは自分たちがいかにしっかり関わっているかを考え、参加の密度を上げるために主体的に行動し、話す機会を多くしようと試行錯誤します。この姿勢やそこで身についた考え方は、卒業後に弁護士になり、裁判に立ち会うようになったいま、私の仕事を支えてくれているなど感じますね。

■先生

私のゼミのもう一つの特徴は、海外研修ですね。

ゼミ合宿で、海外の大学やロースクールに行くんです。そこで現地の学生と交流したり、先生の話を知ったり、最高裁を訪ねたり、弁護士事務所を見学したりします。私の知り合いがたくさん海外で仕事をしていますから、そこを訪ねるというケースが多いですね。

期間は1週間弱。直近ではハワイや台湾、シンガポール、韓国などに行きました。

■大学生

その準備も学生たちで行うんです。海外研修係などを作って、旅行会社と交渉しながらゼミ旅行のプランを立てていきます。

■卒業生

ゼミ単位の活動だと、文化祭で露店を出したりもしますね。あれは楽しい思い出ですね。

■大学生

クリスマス会やOB・OG会などのイベントもありますし、ゼミを通して先生はもちろん、いろんな方とお話ができるのも楽しいところですね。

●大学生活について

お二人が早稲田大学法学部を志望した理由はなにですか？

■大学生

私はもともと棚村先生のもとで学びたいと思ったのが、早稲田大学を選んだ理由なんです。

■先生

私と彼のお父さんは、大学、大学院と一緒に学んだ同期なんですよ。彼のお父さんはいま裁判官をしています。

■大学生

それもあって、棚村先生とは家族ぐるみのつきあいをさせてもらっていて。といっても、先生にお目にかかったのは、私がまだ小さい頃の話ですけど。お会いしたときに「君は将来なにになりたいんだ」と聞いてくださいました。私は父の姿を見ていたので、よくわかってもないのに「裁判官になりたい」といったんです。それを子どもの夢と笑わず、棚村先生はそのためにどうすればいいか、どんなことを考えないといけないか、と親身になって話をしてくださいました。それを聞いて私は裁判官を本気で目指そうと思えましたし、そのときには棚村先生のもとで勉強させていただきたいと思ったんです。

高校の時にオープンキャンパスに参加して、早稲田大学の雰囲気を見て、いいなと思ったのはうれしかったですね。ここでがんばろうと決心することができました。



■卒業生

私も高校時代に弁護士の方と会う機会があったのが、法学部を目指そうと思ったきっかけです。

高校では国際系クラスにいたこともあり、周りと同じく私も英語を勉強するために外大を受験しようかなと思ったこともありましたが、でも、弁護士の方に出会って、いろいろ仕事の話を知ったり、私にアドバイスをしてもらった中で、「人の役に立てる、こんなすてきな仕事があるんだ」とあこがれるようになったんです。

早稲田大学を選んだのは、司法試験の合格数が一番多いことがまず一つ。そして姉も当学の学生で、その様子がとても楽しそうだったのがもう一つの大きな理由ですね。

入学してみてもギャップはありませんでしたか？

■卒業生

ギャップはありませんでしたが、思った以上に自由な校風なのにはちょっと驚きました。先ほど話しましたが、800人ほどが一度に入学します。いろんな人がいて、仲間もいっぱい見つかりました。法学部の中には法律サークルがいくつもあって、そこには司法試験合格を目指している仲間がいっぱいいます。私もそこに入って勉強していました。先輩がいろいろ相談に乗ってくれますし、わからないところを教えてくれたりするので、助かりますし、なにより同じ目標を目指す同志、刺激になりますね。

■先生

サークルに参加する人もいれば、参加せずに勉強をする人もいますね。先ほども少し出ましたが、OB・OG会などで卒業生と会う機会もあります。また、教授陣や研究者も身近な存在として学内にいます。とにかく人数が多い学部なので、「自分も将来こうなりたい」というロールモデルが必ず見つかる。そうすると、その人をまねたり、相談をしたりしながら目指した姿に近づいていけます。そ

れも、当学のいいところですよ。

■大学生

本当にいろんなスタイルの人がいますよね。私は法律系のサークルに入らず、ずっと自分で勉強しているタイプです。

当学には早稲田を好きな人が多い印象がありますね。OB・OG会は本当にたくさんの先輩方が来校されて盛り上がります。また、大学からは「何かしなさい」と言われるのではなく「好きなことをがんばりなさい」と言われているような雰囲気がありますね。そのために好きなことができる環境が整えられているのだな、ということも入学して実感しています。

大学の中でお気に入りの場所がありますか？

■大学生

学部ごとに図書館があるんです。授業も予定もない時は、そこに行って勉強しています。私は一人暮らしなのですが、家にいるとどうしても集中できなくて（苦笑）。

テニスサークルにも参加していて、試合に出たりもしています。オンとオフのメリハリはしっかりつけるように気をつけていますね。

■卒業生

私は2号館派でしたね。そこは全学部生が利用できる自習スペースがあるんです。開放感もあるので、勉強をする時はもっぱらそこでしたね。学部専用の図書館のほか、中央図書館という全学部向けの図書館もあります。私もテニスサークルに入っていて、2年生まではあまり勉強しませんでしたね（笑）。

大学以外ではどんなことをして過ごされていますか？

■卒業生

入学当初はサークルの仲間といろんなところに遊びに行ったりしていました。アルバイトも週5でしてましたね。後半はさすがに毎日大学に来て勉強していました。

■先生

矢部さんは飛び級ですからね。取るべき単位を早く取ってしまって、ロースクールに進学したんですよね。

■卒業生

そうですね。でも「3年生からでもロースクールに進学できるよ」と教えられて、必要単位数もそれほど厳しくなかったので「では、飛び級で進級するか」という感じだったんですよ。そういう制度があるのも特徴ですかね。ロースクールに入ってから一日のほとんどを大学で過ごしていました。私も一人暮らしでしたが、家だと集中できなくて（笑）。大学に来ると先輩もいるし、仲間の姿も見られる。

やらないとという気持ちにさせてくれますね。

■大学生

私はいますずっと大学にいますね（笑）。六法全書をもって歩いている感じですよ。

サークルでは他キャンパスに行く機会もありますし、他学部の学生とも知り合うことができますね。

いろんなキャンパスに訪れましたが、私はここの早稲田キャンパスが一番落ち着きますね（笑）。

●就職活動、仕事について

現在のお仕事について教えてください。



■卒業生

私は司法試験に合格した後、弁護士事務所に入所しました。最初の1年間は、海外のクライアントも多く担当していました。例えば海外の法律事務所から「ある企業が日本で取引をしようとしているのだが、法律について教えて欲しい」「海外企業がファンドを作るのだが、日本で売る際の法律問題を精査して欲しい」といった相談を受けたりという業務がありましたね。

あるいは、海外から日本企業に訴訟を起こす際の対応の相談を受けたりするといったことがありました。日本で働いているのですが、英語を使う機会も多くて、1年間で鍛えられましたね。今年に入ってからは国内部署に移りました。裁判に入ったりもします。国内の部署に移ってからは、お客様から直接お礼の言葉をいただくことも増えました。やはり、人の役に立てたと実感できるのはうれしいですね。あとは大きな事件を扱うと、それが新聞に載ったりするので、やりがいを感じます。現在はチームで動いています。法律事務所の中でも大規模なところなので、基本的にはチームで案件に当たっています。経験を積むと、一人で案件を担当することもあります。まだ先の話ですが、それが現在の目標ですね。そのためにも、今の間にしっかりと経験と技術を身につけなければと思っています。

■先生

弁護士になって卒業しても、働き方は様々ですね。自分で個人事務所を開く人もいれば、企業に入って法律の専門家として働くとか。なかには役所に入って法律問題に取り組む卒業生もいますね。

■卒業生

入ってから求められる知識もいろいろですね。私は最初の年にファンドについての案件も多かったので、金融知識が求められました。詳しい先生に助けをもらい、勉強しながらやっていました。

法律事務所に入所すると、いろんな案件を手がけることができます。それが法律事務所への就職を選んだ理由なんです。

司法試験合格のための勉強のコツはありますか？

■卒業生

私は一つのことをずっとやるより、いろんな勉強をするようにしていました。司法試験とは全く関係のない講義を取ったり、数学の勉強をしたりしました。

気分転換になりますし、一見すると直接関係のない勉強も、後から生きてくることもあります。先ほどもお話ししたように、私は弁護士になってから金融の知識が必要になり、勉強をしました。数学だけでなく、経済や社会の勉強も必要でした。化学の知識が求められることもあります。企業の法律顧問であれば、その企業のことを熟知しなければならず、商品や業界研究は必須です。次々と知らないことを勉強して身につけていく必要が出て来るのです。でも、学生時代に少しでもやっていたことであれば、理解も早く進みますね。学生時代は時間がたくさんあります。ぜひいろんな勉強を楽しみながらやるというのがいいと思いますね。

■先生

早稲田大学では学部を超えて学べる全学オープン科目を受講できます。語学や法学等の必修科目の単位数が取れていれば、後は何を受講するかは本人の自由となります。そこをうまく使って知識の幅を広げるというのはいいでしょうね。

● 5年後に向けて

5年後に皆さんは何をしているでしょうか？

■大学生

5年後は司法試験に合格して、司法修習生も終え、社会に出られるといいな。

私は民事関係の仕事に携わる法曹を目指しています。民事関係の仕事に携わる法曹は人と人の間に起こった紛争を解決します。法律の条文だけに従うのではなく、人の気持ちに寄り添って、「解決できてよかった」「ありがとう」といってもらえるような法曹になるのが理想です。父も裁判官をしているので、その姿を見ていると本当にやりがいのある仕事だなと思えるんです。

その目標のためにも、大学で学んでいる家族法をもっとしっかり研究して、自分の専門といえるレベルにしたいですね。

■卒業生

私はいまと同じ、勉強の毎日が続いていると思います。仕事を始めてからも勉強をしない日はありませんね。でも、そんな日々を通して経験を積み、「この案件は過去に経験がありますから任せてください」と言える分野を作りたいなと思っています。いま一緒に働いている先輩たちの仕事を見習って、少しずつでも近づいていかねばと思っています。

■先生

私は今後、法律のプロフェッショナルである研究者の養成にも力を入れたいと思っています。私の法学のスタートは「困っている人を助けたい」と思ったことでした。「不正を許せない」正義感を持っている法律家を育てることができれば、私の思いがより実を結んでいくと思うのです。これからは日本だけでなく、まだ法整備が十分ではない外国でも活躍できる人材を育てたいですね。それで少しでも踏みつけられたり、弱い立場にいる人を守る法律、法律家が出来てくれればと思います。家族が暖かいものであれば、人はそこでがんばる力を得られると信じています。だから家族法は変わらず研究していると思いますが、スポーツ法など新しいトレンドにも意欲的に触手を伸ばしたいと思っています。知的好奇心はいつまでも旺盛でありたいですね。

●高校生へのアドバイス

大学受験を控えた高校生にアドバイスをお願いします。

■卒業生

司法試験の勉強方法でも話しましたが、いろんなことに興味を持って、メリハリをつけながら勉強すると思いますね。気分転換がしっかりできれば集中もしやすいですし、その時間は後から必ず生きてきます。

■大学生

自分自身の経験なのですが、学力の伸び方って曲線を描いていくものだと思うんです。最初のうちは、成長感がなかなか実感できません。それは基礎的な学力を身につけている期間だから。それは大変だし時間もかかりますが、それを続けていると、一気に上昇する時が来る。つらい時というのは逃げたくなったり、辞めたくなくなったりします。でも、一気に成長ができる、自分の伸びしろを信じてがんばって欲しいと思います。



■先生

そうですね。高校までの勉強は基礎ですから。人は好きなことから優先して、興味を持って進められます。それでもいいと思います。でも、それだけでなく「なんのためにこれをしているんだろうか」ということを考えて、幅広くやって欲しいですね。全ては、将来の人生のためなのですから。いま面白くない勉強も、必ず将来あなたの役に立つのです。

いまの若者には選択肢がたくさん与えられています。そのために逆に選べない、本当にやりたいことが見つからないという人が多くいるように感じます。与えられることになれていると、ついつい安全な方を選んでしまうこともあります。でも、人生の目標や夢、志というのは大きい方がいい。挑戦してできそうもないところを敢えて目標にして、そこを目指すことで自分も成長できると思います。ゼ

ひ安全なところで手を打たないで、途方もない夢を描いて欲しいですね。もし目標ややりたいことが見つからない、という人も、そこであきらめないでがんばって欲しい。大学に行くというのは、そのためにもいいことだと思います。いろんな人に会い、交わることで見つかる夢や目標もありますから。オープンキャンパスなどに積極的に参加して、自分に合った大学を探してみたいですね。恋愛と同じですね。そう思うと大学受験も楽しく思えるかも知れません（笑）。

●インタビューに答えてくれた方々



■先生

棚村政行先生

東京都立赤城台高等学校（現・東京都立国際高等学校）出身



■卒業生

矢部聖子さん

岡山県立岡山城東高等学校出身



■大学生

樋口政隆さん

群馬県立中央中等教育学校